

⑫ 公開実用新案公報(U) 平4-62387

⑤ Int. Cl. <sup>5</sup>	識別記号	庁内整理番号
F 04 C 18/02	3 1 1 Y	7532-3H
F 01 C 1/02	A	8514-3G
21/04	Z	8514-3G
F 04 C 29/02	3 5 1 B	7532-3H

④ 公開 平成4年(1992)5月28日

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全2頁)

⑭ 考案の名称 スクロール流体機械

⑯ 実 願 平2-105432

⑰ 出 願 平2(1990)10月5日

⑱ 考 案 者 遠 藤 拓 郎 埼玉県東松山市箭弓町3丁目13番26号 株式会社ゼクセル  
東松山工場内

⑲ 出 願 人 株式会社ゼクセル 東京都豊島区東池袋3丁目23番14号

⑳ 代 理 人 弁理士 森 正 澄

㉑ 実用新案登録請求の範囲

旋回運動する可動スクロール部材と固定スクロール部材とが噛み合つて圧縮室を形成し、前記圧縮室から吐出される冷凍ガスを冷却システムに導く吐出パイプを有し、この吐出パイプにオイルセパレータが介装されるとともに、ケースの底部にオイル溜りが設けられ、前記ケース内の双方のスクロール部材の下側が低圧となる低圧シエルタイプのスクロール流体機械において、

前記オイルセパレータの内部を仕切板により上部室と下部室とに区画するとともに、上部室を前記吐出パイプに連通する一方、前記下部室の底部と前記オイル溜りとを接続管により連通し、前記上部室と下部室のオイル溜り部間を、抵抗を有す

る連通路により連通したことを特徴とするスクロール流体機械。

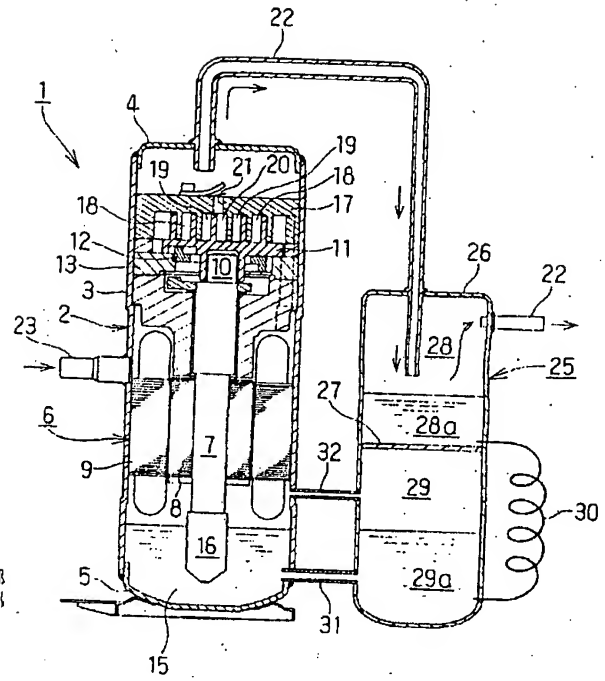
図面の簡単な説明

第1図は第1実施例に係るスクロール流体機械の縦断面図、第2図は第2実施例に係るスクロール流体機械の縦断面図である。

1……スクロール流体機械、2……ケース、11……可動スクロール部材、15……オイル溜り、17……固定スクロール部材、18, 19, 20……圧縮室、22……吐出パイプ、25……オイルセパレータ、27……仕切板、28, 28a……上部室及びそのオイル溜り部、29, 29a……下部室及びそのオイル溜り部、30, 33……抵抗を有する連通路、31……接続管。

第 1 図

- 1…スクロール流体機械
- 2…ケース
- 11…可動スクロール部材
- 15…オイル溜り
- 17…固定スクロール部材
- 18, 19, 20…圧縮室
- 22…吐出パイプ
- 25…オイルセパレータ
- 27…仕切板
- 28, 28a…上部室及びそのオイル溜り部
- 29, 29a…下部室及びそのオイル溜り部
- 30…抵抗を有する連通路
- 31…接続管



第 2 図

